



学校安全・防災だより

【第11号】

多賀城高等学校「ぼうさい教室」開催

11月3日に、多賀城高等学校災害科学科の1年生28名がイオンモール新利府店で、北海道・三陸沖後発地震注意情報の普及と、平時からの自然災害への備えを啓発するため、「ぼうさい教室」を開催しました。

買い物に来店された家族などに、「北海道・三陸沖後発地震注意報」を広く周知するための解説を行い、実際に沿岸部で注意報が発表されている中で、イベントに参加することを想定したワークショップを行いました。その際、どのようなことに気を付けるべきなのか、仮想イベント会場の周辺の地図を見ながら、災害科学科の生徒が加わり、グループごとに話し合いが行われました。

この「ぼうさい教室」に向けて災害科学科では、仙台管区気象台の方を講師にお招きし、北海道・三陸沖後発地震注意情報に関する授業を受けたとのことです。

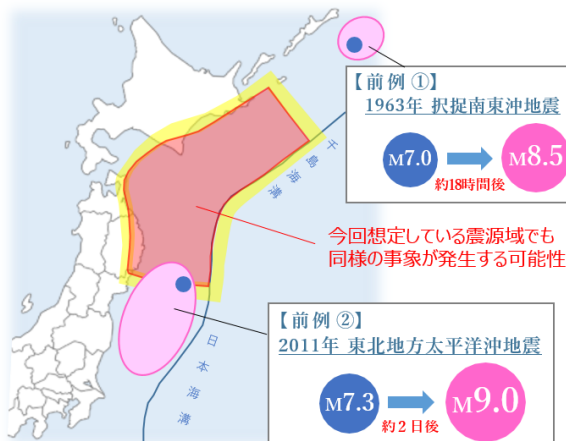
ファシリテーターを務めた高校生は、最初は緊張した表情でしたが、回を重ねるごとに、自信を持って話し合いを進めていました。

東日本大震災時は3歳だったが、当時の記憶が鮮明に残っていると話す高校生もおり、参加者は真剣に耳を傾けていました。



北海道・三陸沖後発地震注意情報とは？

Mw7以上の先発地震が発生した後に
Mw8以上の後発地震が発生した過去事例



日本海溝・千島海溝沿いで地震が発生し、さらに大きな地震（後発地震）が発生する可能性が通常と比べて高まった際に気象庁から発信される情報です。過去にこの領域では、マグニチュード7クラスの地震が発生した後に、さらに大きな地震が発生した事例が確認されています（左図）。

注意情報が配信されたならば、家具の固定や安全な避難場所・避難経路の確認など**1週間程度、平時よりも巨大地震の発生に注意**し、地震への備えを徹底しましょう。

また、津波から避難できる態勢を整えておくことも必要です。

情報の対象領域（赤枠内）と過去の後発地震の事例

【仙台管区気象台 HP より】

組織的な対応がカギ！

— 不審者対応訓練 石巻市立万石浦小学校 —

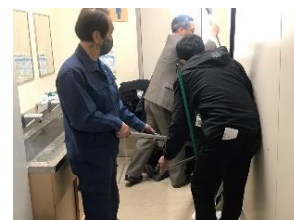


万石浦小学校で、警察と連携した不審者対応訓練が行われました。訓練は、PTA会長や地域防災連絡会の方にも参観していただきました。

不審者役が、校舎のどこから侵入するか事前に決まっておらず、緊張感を持って訓練が実施されていました。

職員は、校地内に侵入した不審者を防犯カメラで確認しながら対応しました。犯人の情報は、緊急放送やタブレットを通じて各教室に伝えられ、教職員は速やかにバリケード作りを行い、児童の安全確保に努めました。

万石浦小学校では、全職員がトランシーバーを携帯しており、非常時にはすぐに連絡を取り合える体制も整えています。訓練後には、警察署の方から防犯講話をいただき、児童は身の守り方を学びました。



※防犯カメラは、石巻市教育委員会が文部科学省委託事業の「学校安全総合支援事業」を活用し、実践校として選定した同校に、不審者対応等への備えとして設置したものです。

《ポイント》できるだけ早い110番通報 本部のすばやい判断と指示
不審者から距離をとっての複数対応 職員間の正確な情報共有（不審者の位置等）



安全点検伝達講習会開催

— 大崎市教育委員会 —



大崎市では、7月26日（水）に岩沼西小学校で行われた「宮城県学校施設等安全点検講習会」の伝達講習を目的に、「大崎市学校施設等安全点検伝達講習会」を開催しました。

大崎市の園・学校を4グループに分け、県の研修会に参加した4名の安全担当主幹を講師に迎えて実施しました。研修会では、①園・校舎内外を実際に歩いての安全点検フィールドワーク、②「宮城県学校施設等安全点検講習会」資料の説明、③各園・学校での安全点検の工夫や改善点などの情報交換を目的としたグループワークを行いました。

参加した先生方は、講師からの説明を聞き、自分の勤務する園・学校の実際を想起しながら、安全点検の正しい方法を学ぶ有益な研修会となりました。



○「よく分かる！安全点検の映像ページ」

<https://www.pref.miyagi.jp/site/gakkou-anzen-bousai/tenkendouga.html>

